

と訓べし、中卷倭建命段歌に、迦賀那倍氏、用邇波許々能用、比邇波登袁加袁、これ夜に對へても、日は伊久加と云證なり、さて八日は、古今集などに、耶宇加と見え、常にも然いへど、えは音便に字加、幸由加と讀は、さもあるべし、

〔古今和歌集〕四、やうかの日よめる

みぶのたゝみね略〇歌

〔和泉式部集〕三、安藝守の婦子うみたるこゝぬかの日ちごのきぬやるとて、

なぬかゆくはまのまさごをかすにしてこゝぬかさへもかすへつる哉

〔日本書紀〕七、四十年十月癸丑、日本武尊發路之、中自日高見國還之、西南歷常陸、至甲斐國、居于

酒折宮、時舉燭而進食、是夜以歌之問侍者曰、珥比麼利菟玖波塢須擬氏、異玖用加禰菟流、諸侍者不

能答言、時有兼燭者、續王歌之末而歌曰、伽餓奈倍氏、用珥波虛虛能用、比珥波苦塢伽塢、

〔古今和歌集〕春、題、えらす

よみ人えらす

かすがの、とぶひののもり出て見よ、いまいくか有て若なつみてん

〔類聚名義抄〕二、今日ケイマ、此日ケフ、今明アケス

〔伊呂波字類抄〕天、計象、今日ケフ、〔同、古、疊、字〕今日

〔和爾雅〕二、時、今日ケフ、當日、是日、此日、即日、不日、終日、登日、登時、時下、即時、即辰、茲

者也、今日

〔日本釋名〕上、節、今日ケフ、此日なり、ことけと通す

〔東雅〕一、文、晝、ヒル、略、〇、中、今朝をケサといひ、今日をケフといふは、今夜をコヨヒといひ、今年をコ

トシといふに同じ、ケといひ、コといふは、轉語にて、共にコノといふ詞なり、ケサといふは、コノア

サなり、ケフといふは、コノヒなり、ケフといひ、キノフといふ、フといふ詞は、日といふ語の轉せし

なり、